

評価実施 令和 6 年度	事務事業マネジメントシート						
事務事業名	富士見台地域まちづくり事業				主管部	都市整備部	主管課 富士見台地域まちづくり担当
政策名	7 都市基盤						
施策名	基本施策21 魅力あるまちづくりの推進						
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	法令根拠	
	一般	08	03	03	0140900		
事業期間	単年度のみ				<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)	

事務事業の概要

事業内容	活動実績及び事業計画
市民の参加と対話を通じて定めた「国立市富士見台地域重点まちづくり構想」(以下「構想」という。)では、重点的・優先的に進める重点プロジェクト(重点PJ)を示しており、各重点PJを推進する事業である。 ◆重点PJ01「市民まちづくりプロジェクト100」に基づき、市民参加まちづくりの将来を見据えひととまちとの関わりを増やしていくため、市民参加の新たな可能性にチャレンジする取組みとして「クラブサバーブ」を開催し、活動人口増加を目指し人材育成を行う。 ◆重点PJ07「UR国立富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクト」、PJ08「UR国立富士見台団地をモデルとした住みたくなる、住み続けられる環境整備プロジェクト」に基づき、団地居住者、地域住民、UR都市機構と対話を重ねながら、住み続けられる住みたくなる団地の環境づくりに取り組む。 ◆重点PJ09「未来に向けた重点エリア検討プロジェクト」に基づき、市役所を中心とした公共施設再編を軸に重点エリアの全体の再編に取り組む。	令和6年度の実績(令和6年度に行った主な活動を具体的に記載) 重点PJ01の参加型まちづくりワークショップ「クラブサバーブ」を実施した。事業を通じて参加者による自主企画が市内外で開催された。重点PJ07・08「団地の暮らしを考える座談会」を開催し、団地居住者、UR都市機構、市の三者で議論を重ね、議論の内容を「団地まちづくり通信」にまとめ全戸配布し、団地の暮らしの課題とニーズを取りまとめ、共有した。重点PJ09は、庁内で内部検討を行った。 令和7年度以降の事業計画(令和7年度以降に計画している主な活動を具体的に記載) 重点PJ01では活動人口を醸成していくクラブサバーブを継続実施する。重点PJ07、08では住み続けられる住みたくなる団地再生に向け、URや団地居住者と意見交換を継続し、具体的なプランを検討していく。重点PJ09は、市役所本庁舎周辺の重点エリアの団地再生と公共施設再編を連携し、地域の魅力を引き出す未来に向けたまちづくりの検討を行う。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的
この事業を実施する経緯・背景・課題等(なぜこの事業を行うのか) 超高齢社会・人口減少社会の到来を迎え、市民の生活課題が多様化・複雑化し、さらに財源が縮減していく時代において、活力のあるまちとして持続的に発展し、国立ブランドを高め、シビックプライドの醸成による「住み続けたいまち」の実現が求められており、実施が目前に迫る団地再生事業と、経年変化への対応が必要な公共施設再編事業を各々単独で行うのではなく、エリアとして一体的な検討を進め、魅力的なまちづくりを実現することを目的とする。さらに、これまで実践してきた市民参加のまちづくりと空間整備を連携させながら進める必要がある。
事業の対象者及び対象とした理由(できるだけ細かくセグメント化する) 国立富士見台団地居住者及び富士見台地域の住民をはじめとした全市民及び富士見台まちづくりに関連する事業者。事業対象エリアは富士見台地域としながらも、公共施設の整備等、市全体のまちづくりの中で検討する必要があるため。
この事業による直接的な効果及び施策の成果向上への道筋 参加と対話を重ねながら、地域固有の価値に注目し、その価値を継承・向上するまちづくりを進めることで、縮減していくこれからのまちづくり(都市整備としてのハード面、関係性づくりのソフト面も合わせて展開)を進めることで、市民生活のサービス向上・ウェルビーイングの向上を図っていく。

(2)各指標等の推移

項目	名称	単位	令和4年度 (決算)	令和5年度 (決算)	令和6年度 (決算見込み)(A)	令和7年度 (令和7年度目標値)(B)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
① 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	クラブサバーブ等の実施回数	ア	4	5	6	4		1
	団地の暮らしを考える座談会開催回数	イ			5	6		5
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	国立市の人口(4月1日時点)	ア 人	76,278	76,182	75,816	76,163(実績)		-366
	富士見台地域の人口(4月1日時点)	イ	17,567	17,405	17,157	18,000		-248
③ 成果指標 (事務事業の達成度を表す指標)	クラブサバーブ修了生累積人数(のべ)	ア 人	30	60	86	106		26
	団地再生に関する情報提供実施者数	イ 人	0	0	2,050	2,050		2050
④ 上位成果指標 (施策の達成度を表す指標)	富士見台地域の居住人口(1月1日時点)	ア 人	17,594	17,510	17,145	18,000		-365
		イ						0

(3)事務事業コストの推移

項目	単位	令和4年度 (決算)	令和5年度 (決算)(A)	令和6年度 (決算見込み)(B)	令和7年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	0
	延べ業務時間	時間	3,700	3,700	3,700	3,700	0
	正規職員人件費計(C)	千円	14,800	14,800	14,800	14,800	0
	会計年度任用職員従事人数	人					0
	延べ業務時間	時間					0
	会計年度任用職員人件費計(E)	千円					0
	人件費計(F)	千円	14,800	14,800	14,800	14,800	0
事業費	物件費・維持補修費	千円	8,629	8,931	10,175	13,340	0
	扶助費	千円					0
	補助費等	千円	195	241	240	300	-1
	繰出金	千円					0
	その他(普通建設事業費・公債費・投資及び出資金等)	千円					0
	事業費計(G)	千円	8,824	9,172	10,415	13,640	1,243
歳入	国庫支出金	千円					0
	都支出金	千円					0
	地方債	千円					0
	その他	千円					0
	歳入計(H)	千円	0	0	0	0	0
	事業費における一般財源 (G)-(H)	千円	8,824	9,172	10,415	13,640	1,243

2 評価の部(CHECK)

必要性評価	① 事業の必要性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 超高齢社会・人口減少社会が進展し、様々な世代や立場の人を取り巻く、暮らしの環境や、人々の意識が変化しており、それに伴う課題も複雑多様化する将来において、行政のみで解決することは不可能で、市民参画・市民の自発的な協力が不可欠である。国立富士見台団地居住者、市民、UR都市機構、その他の関係者等が同じ方向を向いて協働するには、共通の将来ビジョンを持つ必要がある。そのビジョンを掲げるのは公共の役目であるため公共関与は不可欠である。
	② 事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 十分有効的である ⇒【以下に理由を記入】 単年度のみでの活動・成果指標で見れば、市民の参加総数は決して多いとは言えないが、参加したいと感じた市民が参加できる場がまちにあることこそが重要で、計画期間の中で、様々な立場の市民やまちづくり関係者との対話を重ねてきたことは成果である。魅力あるまちづくりの推進には、多様な市民による協働のまちづくりが不可欠であり、そのためには、何よりも相互の関係作りが重要である。これまでたくさんの協働・連携による対話を重ねてきたが、まだまだ声が聞けていない市民層も多い。今後も、様々な手法で、成果を向上させる必要がある。
効率性評価	③ 事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 十分効率的である ⇒【以下に理由を記入】 将来のまちづくりの方向性を左右する本事業において、各プロジェクトを推進するにあたって、空間×人×活動のそれぞれに焦点をあて戦略的に遂行する専門知識・マンパワーが不可欠である。そのため、外部委託を十二分に活用したアウトソーシングしている。重点PJ01「市民100プロ」のクラブサバールにおいては3年間の実施継続により修了生約100名の実績がある。これらの実績をもって、次のフェーズに向け事業費を精査していく必要がある。なお、団地再生事業にかかる市民参加においては、市主催の「団地の暮らしを考える座談会」「団地まちづくり通信」で、UR都市機構に協力いただき、市の事業費削減に寄与している。
	④ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 富士見台地域のまちづくりは、市全体のなかで、富士見台地域がどうあるべきかといった視点で取り組んでいる。公共施設の再編とも大きく関わり、全市民を対象とするため公平・公正である。また、団地再生事業はUR都市機構による事業だが、団地の空間規模、緑の継承、コミュニティ維持等の観点から全市民的に影響がある。そのため、市は市民との対話を重視し、団地居住者、市民の意見を聞きながら中立・公平の立場で、UR都市機構と協議をしていく必要がある。
⑤この事業の対象者からの意見(想定している効果と対象者の感じている効果のギャップはあるか?) ・経年変化する公共施設の魅力が低下しているため、その再編については、多世代が積極的に活用しなくなる機能を確保してほしい。 ・高齢者からは富士見台地域に住み続けられるまちづくりを、若者世代からは若者世代が住みたくなるまちづくりを求められている。 ・まちづくりについては、市と市民が効果的に役割分担をし、住民がしっかりと関わり検討できる体制を整備してほしい。		
⑥この事業は施策の成果向上や公益の増進に役立っているか? 課題発見・解決型ではなく、地域の価値を継承しながら魅力発見・創造型で取り組んできた富士見台地域のまちづくりでは、まちづくり関係者(市民、UR都市機構及び庁内他課)との対話のプロセスを重視してきた。これらの取組によって主体的に公共空間を活用する市民が増加し、空間の整備に市民が関わる新しいまちづくりが実践されている。その結果、まちに愛着をもつ市民が定着するとともに、まちへの満足度も高まる。		

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	これまで団地自治会、UR都市機構、市で議論してきた三者懇談会は、令和6年度より団地の暮らしの課題とニーズを把握するため、対象を団地居住者に拡大し意見交換を行うとともに、意見交換の内容は要約して全戸配布し共有した。また、若者世代がまちに関わるきっかけづくりとして「クラブサバール」を継続実施した。富士見台のまちづくり事業は今後、大規模なエリア再編を検討する時期にきている。そのため、より一層、市民との対話の場が重要となり、市民が楽しめる参加の場を継続する必要がある。その際に、実際の参加者が、どれだけ内容を理解しているか、対話に満足しているかなど数値化して検証する必要がある。	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善策を検討・実施する ⇒【以下に具体的に記入】 <input type="checkbox"/> 現状維持(担当課評価がすべて適切である場合)		
有効性改善	【改善策】 市民参加の手法としてアウトリーチも含め、様々な対話の場を検討していく。また、参加者へのアンケート等の実施を検討し、満足度等を見える化していく。	【改善策を実施した場合の効果】 参加の場が多様にあることであらゆる世代が参加可能となる。また、アンケート等により参加者の理解度・満足度等が見える化され、参加の質が向上する。
効率性改善	【改善策】 重点PJ01「市民100プロ」に基づき関係性づくりの継続の観点から、まちとひととの関わる入口となるクラブサバールの継続を年頭に、プログラム内容を修正し、委託コスト削減を図りながら、活動人口が増加し主体的に公共空間を利用できるしくみを検討する。	【改善策を実施した場合の効果】 クラブサバールの取組をはじめとする様々なコミュニティ形成(関係性構築)の取組を継続することで、能動的にまちを楽しむ市民が増加し活動となって魅力的なまちの風景が生まれる。
	【改善策】	【改善策を実施した場合の効果】
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		
市民参加の場は、参加者が対話を楽しみ、また参加したいと思える満足度が重要である。効率性改善の観点からプログラム内容を修正し、一部の作業も内製化し、令和7年度は委託コストを削減した。その一方で参加の場の魅力低下は否めず、必要な経費を見極め予算配分の適正化を図る必要がある。		
(6) 令和8年度予算編成に向けて		
【事業の方向性】 継続	【取組方針】 富士見台地域のまちづくりは、愛着をもった市民の育成、活動の醸成、魅力的な都市空間の整備をクロスしていく必要がある。そして、令和8年度は、重点PJ01「市民まちづくりプロジェクト100」の継続、URIによる団地再生事業及び重点エリアの公共再編事業が進む中、将来を見据えたまちづくり事業を進めるため、重点エリアの土地利用の方針を示すランドデザイン(共通のビジョン)の検討をしていく必要があり、そのためにはこれまでの検討深度をさらに深める専門的・技術的な支援・体制が必要となる。また、「クラブサバール」については、参加者による自主企画が広域で実施されていることを踏まえ、富士見台エリアに限定しない取組へと位置付けを変更した上で、引き続き若者世代がまちに関わるきっかけとして機能させる。	
【予算の規模(R7比較)】 増加		